

# 第35回 全国都市緑化やまぐちフェア

## 基本構想

山口県・山口市・公益財団法人 都市緑化機構

## はじめに

花や緑は、我々の暮らしにゆとりと安らぎを与えてくれるほか、景観の形成や防災性の向上、生物多様性の維持、二酸化炭素の吸収源となるなど、様々な役割を担っており、無くてはならないものです。

また、花や緑とふれあうことを喜びと感じ、草花を愛でる風習は、日本古来の文化であり、これを未来に継承していくことは大切です。

近年、人口減少や少子高齢化の進行、産業構造の大きな変化に伴う地域間・国際間の競争激化、頻発する自然災害などにより、本県を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。

こうした中、本県では、県民誰もがはつらつと暮らせる「活力みなぎる山口県」の実現に向けて取り組んでいるところであり、県民の暮らしに無くてはならない花や緑について、その重要性を再認識し、将来にわたって創出・保全・活用の取組を継続・拡大していく必要があります。

本県では、これまでも都市緑化の推進に積極的に取り組んできており、平成20年に「全国みどりの愛護のつどい」、平成24年に「全国植樹祭」を開催し、これらにより、県民の緑化に対する意識は確実に高まってきています。

こうした県民の緑化意識の更なる向上を目指し、「緑豊かな潤いのあるまちづくり」を一層加速化する契機として、第35回全国都市緑化やまぐちフェアを開催するものです。

本基本構想は、やまぐちフェアの基本理念、基本方針、基本的事項、事業に関する基本的な考え方等を取りまとめたものであり、平成28年度以降、具体的な取組内容を定める基本計画や、実施・運営等に関する詳細な内容を定める実施計画を策定し、県民をはじめ様々な関係者の力を結集してやまぐちフェアをつくり上げていきます。

# 目 次

1	開催の意義と背景	1
	(1)全国都市緑化フェアの動向と役割	1
	(2)やまぐちフェア開催の意義と背景	3
2	開催の基本理念・基本方針	12
	(1)基本理念	12
	(2)基本方針	13
3	開催テーマ	14
4	開催の基本的事項	14
	(1)主催者	14
	(2)開催時期	14
	(3)会場	14
	(4)入場料等	15
	(5)目標入場者数	15
	(6)愛称・シンボルマーク	15
5	会場計画	15
	(1)メイン会場計画	15
	(2)全県的展開	17
6	運営計画	18
	(1)出展・展示計画	18
	(2)行催事計画	21
	(3)会場運営計画	21
	(4)広報宣伝計画	21
	(5)交通輸送計画	22
	(6)協働推進計画	22
7	事業推進計画	22
	(1)事業推進体制	22
	(2)事業スケジュール	22
	(3)概算事業費	22

# 1 開催の意義と背景

## (1) 全国都市緑化フェアの動向と役割（「全国都市緑化フェア検討会」提言より）

### ア 開催動向

昭和 57 年(1982 年)6月の都市計画中央審議会において、『都市緑化に関する意識の高揚と知識の普及等を図るための中心的行事として定期的を開催都市を選定し、都市公園を会場として全国都市緑化フェアを実施すべき』との答申がありました。これを受けて、当時の建設省が提唱し、都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として、昭和 58 年(1983 年)以来、全国各地で開催されています。

初期の頃は、大都市における公園整備の推進や緑化の普及啓発にとどまらず、民間パビリオンや遊園地が設置されるなど、博覧会的な要素が取り入れられました。

しかし、平成 2 年(1990 年)に開催された国際花と緑の博覧会を機に、市民の緑化意識、花・緑への関心が高まり、フェアの性格も市民参加型のものへと転換するとともに、開催も地方都市へと展開されていきました。それに伴い、地域らしさがさらに重視されるようになり、開催地域ごとに地域の資源との連携を図る傾向が見られるようになりました。

平成 10 年代後半からは、市民参加による事業展開が主要な要素となる一方、観光振興や地域産業振興の色合いも強くなってきています。

### イ 今後求められる役割

公園・緑の創造・更新や緑のあるライフスタイルなどの視点から、今後のフェアには以下のような役割が求められます。

#### (ア) 「個の活動」とのつながり

花の好きな人、花や緑のある暮らしを求める家庭、これらの人々が都市緑化を進める原点となる人々であり、これらの人々に活躍してもらうことが、身近な環境問題の解決や、花や緑によるよりよい暮らしづくりには重要です。

フェアにおいても、身近な緑への取組に着目し、これらの結びつきを構築していく必要があります。

### (イ) 地域らしさ・伝統の継承

フェアは開催地における地域らしさを表現する機会でもあることから、参加型で我がまちへの愛着（シビックプライド）を高めようという動きや、伝統を活かして新しい創造につなげていく取組を進めるなど、地域の暮らしぶりを表現していく必要があります。

### (ウ) 多様な主体の参加

フェアの展開にあたっては、行政が主導するだけではなく、個人や家庭、市民部グループ、民間企業などと一緒に作りあげていく体制の構築が不可欠であり、様々な主体が参加することで、フェアを地域全体に展開することが可能となります。

### (エ) 新たな市場の形成・技術情報の発信

花や緑を活用した都市環境の形成に関する民間企業等の新たな技術・アイデアの採用や展示等を通じ、新たな市場の形成が期待できます。

また、それらの技術情報を、フェアでの展示・実体験を通じて、わかりやすく発信・共有していくことが求められます。

### (オ) 関連する産業との連携

花や緑に直接係わる産業だけではなく、環境や住宅、エネルギー等の産業分野とも連携することで、様々な視点でのライフスタイルの提案等が可能となり、フェアの広がりが形成されます。

また、教育や福祉など、個人や家庭の身近な問題を、緑を通じて解決する機会としてもフェアは重要な役割を担っています。

### (カ) 新しい公園のあり方への提案

都市公園の利用の活性化や、公園の新たな管理運営・経営に向けて、官民連携のスキームの導入などをフェアにおいてモデル的に実施し、その成果から、これからの公園のあり方を提案することが考えられます。

## (2) やまぐちフェア開催の意義と背景

### ア やまぐちフェア開催の背景

#### (ア) 人口減少・少子高齢化

○山口県の人口は、全国より20年以上も早く、昭和60年(1985年)から減少傾向に転じており、平成22年(2010年)10月の国勢調査では145万人となっています。

○これまでの趨勢で人口が推移したとすれば、30年後の平成52年(2040年)には約30%減少する見込みです。

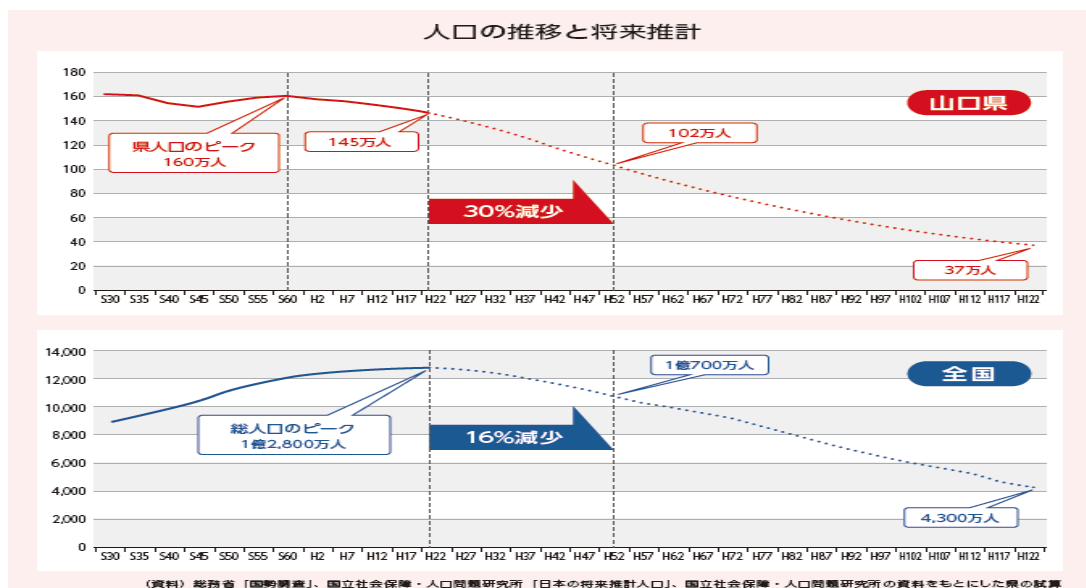


図-1

○年齢別人口構成比率は、平成22年から平成52年に向けて、14歳以下は1.2ポイントの減少、65歳以上は7.7ポイントの増加となる見込みです。

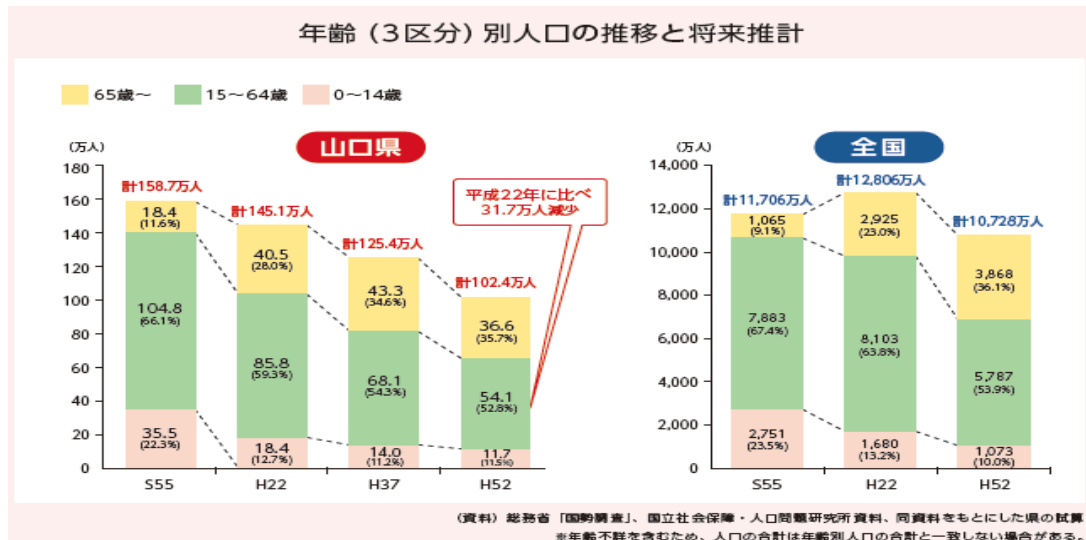


図-2

○本県では、全国より早いスピードで人口減少・少子高齢化が進んでいます。

## (イ) 緑に関する取組

○本県では、県民生活における健康増進やレクリエーションなど多様な役割を担う緑について、その創出・保全に関する取組を積極的に行ってきました。

○平成20年4月に『第19回全国「みどりの愛護」のつどい』、平成24年5月に『第63回全国植樹祭』を開催し、これらによって、県民の緑化に対する意識は確実に高まってきています。

○特に、全国植樹祭では、会場運営等を多くのボランティアの方々に支えられ、これを契機に、県内の森林ボランティアの数が56団体1,848人(平成24年4月時点)から73団体3,591人(平成27年4月時点)に増加するなど、緑化推進の取組は着実に広がっています。

○都市部に目を向けると、県内全体の都市公園面積は、一人当たり14.2㎡であり、全国平均の10.1㎡を上回る全国第12位の整備水準です。施設整備としては順調に行われていますが、人口減少・少子高齢化が進んでいる中、今後、これらを適正に保全・活用し、都市緑化をさらに進めていくことが必要です。

【緑の分類】



図-3

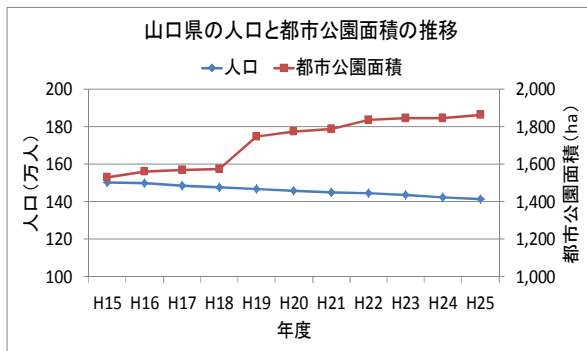


図-4

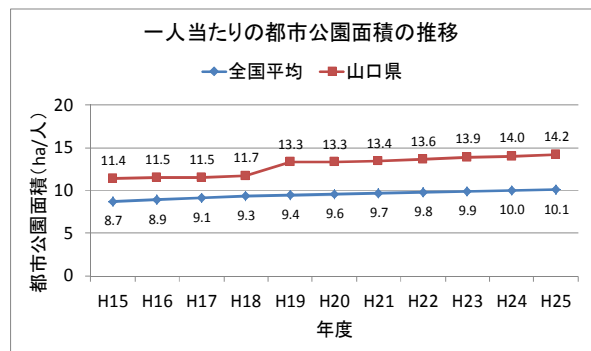
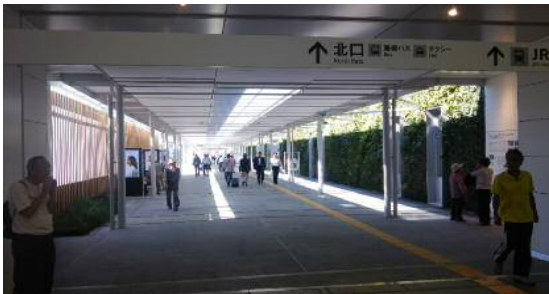


図-5

○都市部における緑化活動については、都市公園における緑化ボランティア活動を行っている団体は 81 団体ありますが、これらは特定の地域に偏っているのが現状です。

活動が盛んではない地域からは、緑化に関する知識・技術の習得や指導者の育成を行う機会を求める声があることから、今後、緑化活動が県内全域に広がるような取組が必要です。

○都市公園以外の公共施設においては、平成 27 年 10 月に完成した JR 新山口駅の南北自由通路に「垂直の庭」と呼ばれる先進的な緑化の事例がありますが、このような取組が今後、民間施設等においても積極的に行われ、人々に緑豊かな潤いのある空間が提供されることが望まれます。



新山口駅 南北自由通路



「垂直の庭」

#### 「垂直の庭」

世界的に活躍する植物学者 パトリック・ブラン氏が、山口の豊かな自然に魅了され、自ら選んだ 140 種もの山口の植生植物を、約 2 年かけて育成・植栽したものです。

独自設計された灌水システムのもと、美しいアートとして、今後も成長し、自然の健やかで細やかな表情を見せてくれます。



## (ウ) 県民活動

○県民の自主的・主体的な社会参加により、地域の様々な課題を解決する NPO 活動やボランティア活動などの県民活動は、活力ある地域社会を実現していく上で重要な役割を果たしています。

○山口県では、2千を超える県民活動団体が幅広い分野で活動を展開しており、地域づくりの様々な担い手として活躍しています。

○年々増加する高齢者が、その豊富な知識や経験、技能等を活かし、生涯を通じて積極的に社会に参加できるような取組・環境整備を進めていくことが求められています。

○障害者が参加しやすい環境整備、個々の能力・才能が発揮できる場の創出など、障害者がいきいきと暮らすことのできる社会づくりが求められています。

○本県が目指す「活力みなぎる山口県」の実現には、県民一人ひとりのみならず、様々な主体が協働し、お互いに支え合い、助け合いながら、地域づくりの推進力となるような活発な県民活動のための基盤整備・強化やその中核を担う人材の育成が重要です。

○平成 24 年に開催された全国植樹祭では、一般県民による植樹が行われました。

県・市町の活動支援センターの登録団体数の推移



図-6

高齢者人口の推移(山口県)



図-7

民間企業における障害者数及び雇用率の推移(山口県)

年月	企業数(社)	うち法定雇用率達成企業の割合(%)	障害者数(人)	実雇用率(%)	全国実雇用率(%)
平成21年6月	682	54.7	2,835	2.22	1.63
平成22年6月	676	55.2	2,993	2.28	1.68
平成23年6月	755	52.8	3,375.5	2.24	1.65
平成24年6月	746	56.4	3,426.5	2.28	1.69
平成25年6月	859	49.6	3,664	2.33	1.76
平成26年6月	844	52.5	3,972.5	2.46	1.82

(資料) 山口労働局 ※H25.4.1より法定雇用率が改定(1.8%→2.0%)

図-8

## (工) 地域の産業

### a 花き産業

○緑とともに花は、県民の心豊かな生活の実現に大きな役割を果たしていることから、本県では、これまで花き産地の育成や地産・地消を核とした新たな需要の創出に向けて取り組んできました。

○「やまぐちフラワーランド」では、県民に花と親しむ場を提供するとともに、花のある生活の提案や花に関する情報発信を行うことにより、県産花きの消費拡大を図る取組を行っています。

#### やまぐちフラワーランドの概要

場 所：柳井市新庄地内
開設年月：平成 18 年 4 月
敷地面積：約 12ha
・約 35,000 m <sup>2</sup> の庭園に、年間 50 万本の花壇苗を植え、90 品目 300 種類の花が咲き誇ります。
・花をより身近に感じ、学び、花をおしゃれにあしらうことができるように、様々な体験教室を行っています。

○また、やまぐちフラワーランドに隣接する「山口県花き振興センター」では、花き振興を図るためのリーディング品目として、県オリジナルのプチシリーズ（ユリ）、西京シリーズ（リンドウ）を開発し、山口県花卉農協等と連携して産地化を推進しています。



「プチソレイユ（ユリ）」



「西京の初夏（リンドウ）」

○生産者の高齢化による担い手の減少や輸入花きの増加等から、花き生産は厳しい状況にあり、県内市場の取扱高は近年減少傾向にあるとともに、県庁所在地1世帯当たりの年間切り花購入額は、全国平均と比べて低い水準にあります。

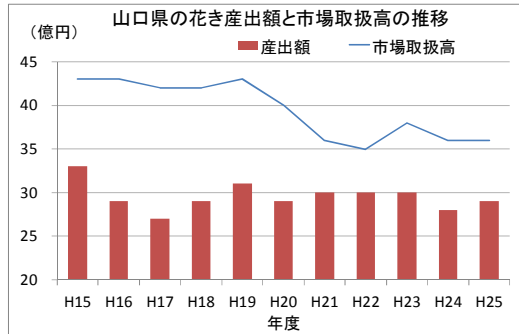


図-9 県農林水産部資料

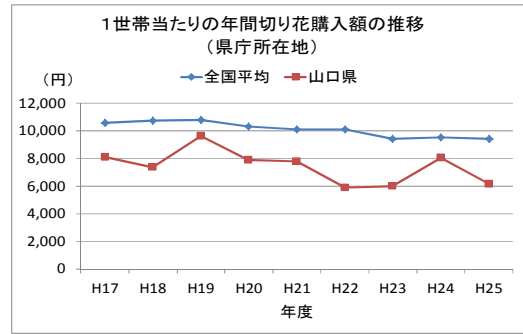


図-10 総務省資料「世帯当たり支出金額」

○今後、生産・流通・消費の各界の関係者が一層緊密に連携し、花き産業及び花き文化の振興を推進することは本県の重要課題です。

## b その他産業

○本県では、瀬戸内沿岸地域に高い省エネ技術を有する基礎素材型産業が集積するとともに、再生可能エネルギー関連の製品や技術を有する企業が多く存在することから、このような特性を活かし、次世代産業の育成に力を入れています。

○また、瀬戸内コンビナートでは、全国トップクラスの大量かつ高純度の水素が生成されており、こうした本県の強みを活かし、水素供給インフラの整備や、水素関連製品の研究開発・事業化の促進とともに、水素ステーションを核とするまちづくりモデルの全県展開を図ることにより、「水素先進県」の実現を目指しています。

○その他、優良県産木材や森林バイオマスなどの森林資源について、需要拡大に対応した生産体制の強化により、成長産業化に向けた挑戦を行っています。



「水素ステーション」

## (オ) 環境保全

○豊かな自然環境を後世に引き継いでいくためには、資源の枯渇や環境破壊について対策を行うことが重要であり、地球温暖化対策の推進や再生可能エネルギーの導入促進、循環型社会の形成などが求められています。

○本県では、太陽光発電の普及拡大、森林バイオマスエネルギーの活用促進、小水力発電の普及促進など、様々な再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、電気自動車利活用に向けた充電インフラの整備・燃料電池自動車の普及促進等、二酸化炭素の排出量削減を図ることにより地球温暖化対策を推進しています。



「太陽光発電」

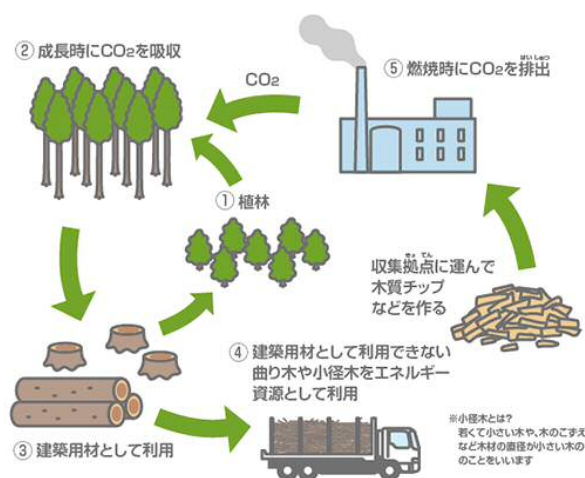


図-11



「ペレットストーブ」

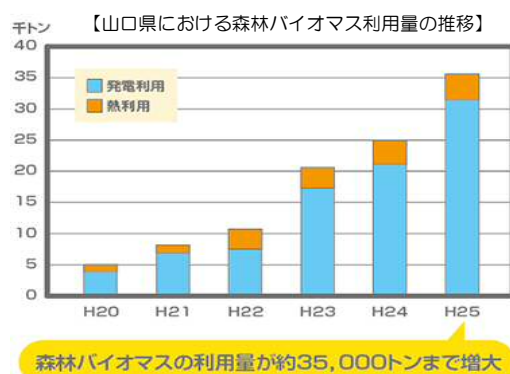


図-12 県農林水産部資料

○また、容器包装廃棄物や食品ロスの削減に向けた3R 県民運動の展開や事業者の3R 関連の取組支援等、事業活動や日常生活の中で、資源・エネルギーの循環・効率化、廃棄物の発生の抑制・適正処理を進めることで環境負荷の少ない循環型社会の形成を目指しています。

## (カ) 地域特性、歴史・文化

○山口県は、本州の最西端に位置し、三方が海に開けるとともに、中国地方を縦貫する中国山地やその支脈により 400～500m 程度の丘陵地が広く存在することから、県土の約 71%を森林が占め、これは、全国平均の約 62%を超えて全国第 16 位であり、自然環境に恵まれた県です。

○このような地理的条件を活かし発展を遂げてきた本県は、近代日本の礎や原動力となった数多くの人材を輩出し、数多くの産業資産を通じて、我が国の近代化への息吹を強く感じることができる歴史豊かな土地です。日本の歴史の大きな転換の舞台である県内には多数の歴史資産・文化遺産等が存在し、様々な魅力を有しています。

○山口県を原産とする夏みかんは、明治 9 年(1876 年)に萩市で全国初の栽培が行われ、当時困窮していた土族達の主要な生業となったことから萩の町全体へ広がっていきました。長門市仙崎にある原樹は昭和 2 年(1927 年)に国の天然記念物に指定され、夏みかんの花は郷土を象徴する花として昭和 29 年(1954 年)に県花に選定されています。

○また、県内に広く分布するアカマツは、昭和 41 年(1966 年)に県民からの公募により県木として選定されており、どんなやせ地でも育ち、かんばつにも強いことから「根性の木」として評価されています。

○平成 27 年(2015 年)には、萩の 5 資産(萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾)を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産として登録されたほか、美祢市秋吉台地域が日本ジオパークとして認定されました。

○本県は、これらのような様々な魅力を有しながらも、県外に向けた情報発信力が弱く、全国的な知名度が低い状況にあることから、認知度を高めるための戦略的な情報発信方法等が課題となっており、今後は、本県が持つ多彩な魅力を全国に発信し、観光の振興を図っていくことが重要です。



夏みかんの花(県花)



アカマツ(県木)



明治日本の産業革命遺産(松下村塾)

## イ やまぐちフェア開催の意義

### (ア) 持続可能な緑の保全

緑化に関する知識の普及や指導者の育成を通じた緑化活動の継続・拡大を目指す取組とともに、多様な主体により緑を保全する新たな仕組みづくりなどを行うことにより、フェアは、将来にわたる持続可能な緑の保全に向けた重要な契機となります。

さらに、フェアにおいて様々なイベントや出展・展示等を行うことにより、来場者が花や緑が持つ多様な役割を再認識し、県民一人ひとりの緑化意識がさらに向上することが期待されます。

### (イ) 産業の振興

フェアの会場において、県産花きによる花壇等の出展、花きの販売、県オリジナル花きのPR等を行い、県産花きの需要や販路の拡大を目指すことにより、花き産業の振興にも寄与します。

さらに、人々の「暮らし」という観点から、緑化、造園、住宅等の関連する技術や、本県の特徴である基礎素材型産業を活かした環境・エネルギー分野での新技術等に関する情報提供や出展・展示を行うことにより、フェアがこれら地域産業の振興にも寄与します。

### (ウ) 循環型社会の形成

自然環境を保全するためには、緑の保全とともに、産業や日常生活における資源やエネルギーの循環・効率化や廃棄物の発生抑制等を進め、環境に対する負荷を低減させることが重要です。

フェアにおいて、我々の暮らしに関係する、太陽光や森林バイオマスなど、再生可能エネルギーの活用について、出展・展示を通じた積極的なPRを行うことで、循環型社会の形成にも寄与します。

### (エ) 観光振興・景観形成

平成30年は明治150年の節目に当たることから、観光キャンペーンと連携した観客誘致活動や、各地の公園等における事業と連携した取組などを実施することにより観光の振興が図られ、交流人口の拡大・定住の促進も、フェアの効果として期待されます。

将来的には、緑化活動の拡大により、美しい景観の形成や花や緑に関する文化の継承・創造につながります。

## 2 開催の基本理念・基本方針

### (1) 基本理念

#### ア 花や緑を大切にすることの目覚め

花や緑は、五感を刺激し、人々の心を健康にするとともに、暮らしにゆとりと安らぎを与えてくれるものです。また、景観の形成や防災性の向上、生物多様性の維持、二酸化炭素の吸収源となるなど、重要かつ多様な役割を担っています。

県民が、フェアの開催準備に関わり、また、開催期間中の様々な展示・イベント等を楽しむことを通じて、花や緑の役割を再認識し、花や緑に興味・関心を持ち、花や緑を趣味とする人が増えることを目指します。

#### イ 緑豊かな潤いのあるまちづくり

緑豊かな環境を守り、育て、後世に引き継ぐ価値観を共有することは大切です。

県民一人ひとりの花や緑を大切にすることが緑化活動の輪になり、県内各地の公園・緑地をはじめ、様々な生活空間に広がることにより、「緑豊かな潤いのあるまちづくり」を目指します。

#### ウ 経済の好循環

花や緑に加え、暮らしと関連する様々な技術・産業のPR等も行い、都市緑化を軸としたイノベーションにより、地域産業の振興による経済の好循環を目指します。

#### エ 観光の振興（本県の魅力を全国に発信）

県内各地の公園、観光施設、道の駅等での取組と連携し、明治150年を機に、多くの歴史資産・文化遺産等が存在する本県の魅力を全国に発信することにより、観光の振興につなげることを目指します。

## (2) 基本方針

### ア みんなでつくるフェア

計画段階から自治体、関係団体、企業、県民が知恵を出し合い、みんなの力を結集してつくりあげるフェアとします。

#### <展開イメージ>

- ▶ 様々な主体による、出展・展示・情報提供や体験型イベント、コンテスト、教室等を企画します。
- ▶ 春から秋に県内各地の公園・緑地等で実施されるイベントや展示等と連携し、花や緑とふれあう取組を全県的に展開します。
- ▶ 「巨木」「名木」、まちなかの並木、森林などの重要性や実態、森・川・海のつながりを再認識してもらえるよう、事例紹介や情報発信等を行います。
- ▶ 将来を担う子どもたちに、花や緑とふれあうことの楽しさを体験してもらうため、県内全域において、「花育」などの学校教育と連携し、会場準備や開催期間中の取組を行います。

### イ 身近な花や緑に親しむフェア

県民一人ひとりが身近な花や緑について興味を持ち、緑化活動の第一歩を気軽に踏み出せるようなフェアとします。

#### <展開イメージ>

- ▶ 生活に密着したものとして「ガーデニング」に着目し、「興味を持っていない」「やり方がわからない」「もっと頑張りたい」など、様々な県民の事情を想定して、講座や体験教室等の取組を行います。
- ▶ 緑化活動について、県民一人ひとりがその意義を理解し、また、日々の楽しみとってもらえるよう、花や緑を愛護する活動に関する情報提供や、実際の活動者による講演等を行います。
- ▶ 将来にわたり緑化活動が継続・拡大するような仕組みづくりを行います。
- ▶ 都市公園等の新たな利活用や管理運営につながるような、モデル的な事業を実施します。
- ▶ フェア開催後もメイン会場が県民の緑化活動を象徴する拠点として活用されるような取組を行います。

### ウ にぎやかなフェア

花や緑のほか、あらゆる年代の人が興味を持つような幅広い分野の内容やフェア開催後も楽しめるような内容を盛り込むことで、にぎやかなフェアとします。

#### <展開イメージ>

- ▶ 子どもや家族連れが楽しめるような展示・装飾、イベント、遊具施設等を充実させます。
- ▶ 暮らしに関連する造園、住宅、エネルギー等の新しい技術に関する出展・展示等を行い、未来に向けたライフスタイルの提案を行います。
- ▶ 明治150年を記念した取組や観光キャンペーンとの連携など、国内外から多くの観光客が訪れるように、観客誘致活動や会場準備等を行います。



### 3 開催テーマ

#### ア 全国都市緑化フェア統一開催テーマ

「緑豊かなまちづくり」

～窓辺に花を・くらしに緑を・明日の緑をいまつくろう～

#### イ 全国都市緑化やまぐちフェア開催テーマ

やまぐちフェアの開催テーマについては、開催意義、基本理念、基本方針等を念頭に置きながら、基本計画において決定します。

### 4 開催の基本的事項

#### (1) 主催者

主催者：山口県・山口市・公益財団法人 都市緑化機構

※フェアの実行組織として、これらの主催者や多様な団体等の参加と協力のもとに実行委員会を構成します。

提唱者：国土交通省

#### (2) 開催時期

平成 30 年の秋季とします。

※具体的な開催期間は、事業内容・事業費・目標入場者数等を勘案し、基本計画において決定します。

##### (開催時期設定の考え方)

- ・都市緑化月間（10月）における全国的な取組と連動した、都市緑化の普及啓発を行うことができます。
- ・春から秋まで県内各地の公園・緑地や観光地等で展開される、多様なイベント等と連携し、その締めくくりとしてフェアを開催することができます。

#### (3) 会場

メイン会場：山口きらら博記念公園

##### (メイン会場設定の考え方)

- ・平成 24 年に全国植樹祭が開催され、天皇皇后両陛下によるお手植えや、一般県民による植樹等が行われた場所であることから、緑化活動の継続・拡大に向けた取組をさらに進めていくに当たり、ふさわしい場所です。
- ・フェア開催後も多くの人々が訪れ、さらに交流が促進されるよう、公園施設の充実を図る余地があります。
- ・広大な面積を有する都市公園であり、大規模なイベントにおいて多くの来場者に対応できます。
- ・空港、新幹線駅、高速道路インターチェンジ等に近接しており、交通アクセスが容易です。

(4) 入場料等

基本計画以降、具体的な事業内容とともに検討します。

(5) 目標入場者数

基本計画において、開催期間、事業内容等を勘案し、設定します。

(6) 愛称・シンボルマーク

基本計画以降、山口県の特性や事業の特徴を踏まえて決定し、広報宣伝活動で活用します。

## 5 会場計画

(1) メイン会場計画

ア 基本的な考え方

メイン会場については、基本計画以降、以下の考え方に基づいて具体的な取組内容等について決定します。

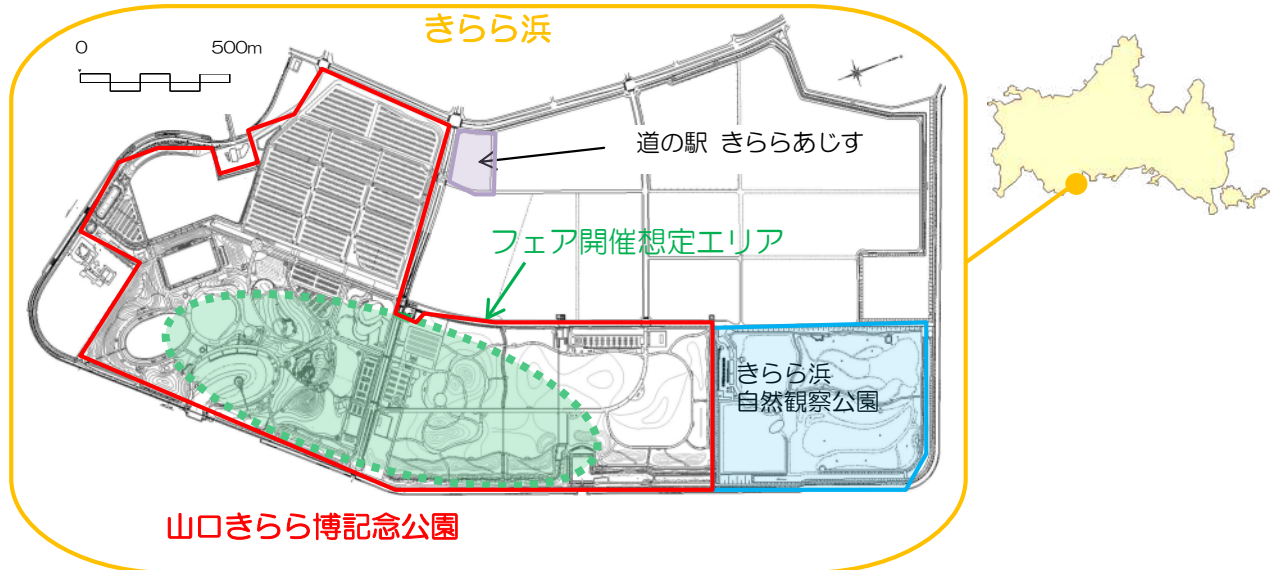
- 広大な山口きらら博記念公園において、来場者の移動を考慮した適正な規模のエリアを設定します。
- あらゆる世代の人々が楽しめる「にぎやかな会場」とします。
- 県内外の自治体、関係団体、企業、NPO、県民から広く出展・展示を募り、できるだけ多くの人々の参加を目指します。

(その他留意する事項)

- バリアフリーに配慮するとともに、来場者の動線を考慮したうえで効果的な園内交通手段を検討します。
- 園内の既存施設を有効活用しつつ、適所に花壇、庭園、その他の出展・展示を行い、来場者にわかりやすい案内サイン、解説サインを設置します。
- 会場運営や行催事に使用する仮設施設は、きらら浜の強風を想定した強度を有する構造・材質としたうえで、極力安価なものとしします。
- 将来の維持管理を念頭に置きながら、都市公園事業による恒久施設整備とフェア事業による仮設整備との仕分けを行います。
- フェア期間中の花の植替えなど効率的な維持管理等を考慮したバックヤードを設けます。
- 仮設花壇等については、撤去後の処分・利用（配布）をあらかじめ考慮したものとしします。

## イ メイン会場と隣接地との連携

山口きらら博記念公園内でのフェア事業は、「きらら浜自然観察公園」や「道の駅 きららあじす」など、きらら浜での取組と調整・連携して行うことを検討します。



## ウ 園内交通の検討

山口きらら博記念公園は広大な敷地を有するため、来場者の回遊性を高めるための補助的な移動手段の導入を検討します。

運行ルートや運行頻度は、平日又は休日の会場内における具体的な出展・展示計画に合わせ、設定します。

### 《園内交通手段のイメージ》



※第 32 回全国都市緑化あいちフェアにおける園内交通の例

## (2) 全県的展開

フェアの効果を全県的に波及させるため、県内各地の公園・緑地等において、運営主体が自主的に行う取組（展示、行催事、情報発信等）と連携し、相乗効果が発揮されることを目指します。

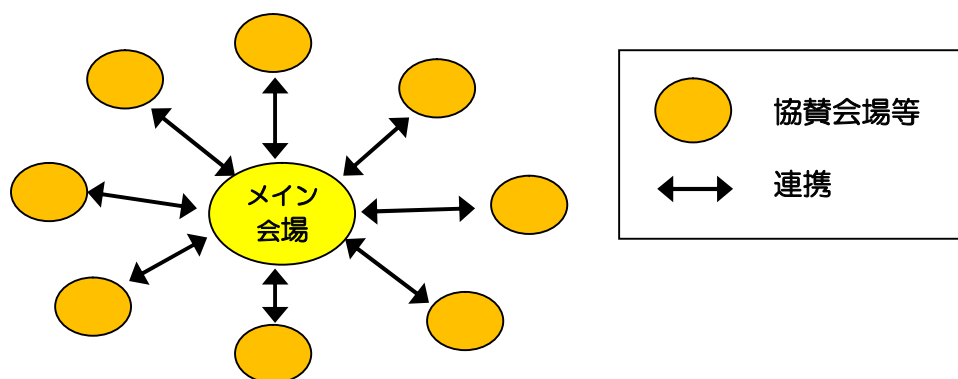
※具体的な会場や取組内容等については、基本計画以降に決定します。

全県的な展開の方法については、以下の考え方に基づいて計画を行います。

- フェア開催年に、フェアの基本理念に沿って運営主体が自主的に展示・行催事・情報発信等を実施するものとします。
- 県内各地の公園・緑地や観光拠点など花や緑の名所・道の駅等で、メイン会場と相乗的な効果が得られるものとします。
- 相乗的な効果を高めるため、メイン会場をはじめとする各会場が相互に連携する仕組みづくりを行います。
- あらゆる世代の人々が気軽に立ち寄り、楽しめる会場とします。
- 来場者数をカウントする方法を検討します。

※各協賛会場等での実施イベント期間とやまぐちフェア開催期間とがずれを生じる場合の取り扱い等具体的な内容については、基本計画以降で検討します。

### 《全県的な展開のイメージ》



## 6 運営計画

### (1) 出展・展示計画

#### ア 基本的な考え方

メイン会場においては、以下の考え方に基づいて出展・展示を行います。

- 既存施設を活用しながら、あらゆる世代（特に、子どもや家族連れ）が楽しめるような内容とします。
- 県内外の自治体をはじめ、企業、関係団体、NPO、学校関係、一般県民など幅広く参加者を募ります。
- メイン会場の特徴を生かしながら、やまぐちフェアの開催理念を体現し、観客誘致につながるような内容とします。
- 山口県における県民の今後の緑化活動につながるような内容とします。
- 花・緑に限らず、様々な視点から、花や緑に関連するものについて幅広く来場者が興味を持つ内容とします。
- 「暮らし」の観点から、住宅・新エネルギーなど関連産業・技術を紹介し、新しいライフスタイルの提案となるような内容とします。

（例）

- 花に集まる蝶などの昆虫やメイン会場や隣接するきらら浜自然観察公園に飛来する鳥に関する出展・展示を行い、併せて催事として観察会を行うなど。
- 山口県は、全国トップクラスの水素生産県であり、環境に配慮した新エネルギー（水素自動車等）に関する出展・展示を行うなど。

**展開イメージ**

※第 32 回全国都市緑化あいちフェアにおける出展・展示の例

【デザインウォール】



【緑化壁】



【花壇】



【花壇】



【花壇】



【花壇】



【ハンギングバスケット】



【ハンギングバスケット】



【庭園】



【コンテナガーデン】



【フラワーデザイン】



【プランター】



## イ コンテスト

メイン会場においては、以下の考え方に基づいてコンテストを実施します。

- 園芸や造園、緑化等の技術や活動などを全国的な視点から評価顕彰することにより、その技術や活動の情報発信と一層の緑化推進につながる内容とします。
- 可能な限り多くの出展形態について、コンテストの対象とすることにより、質の高い出展を促すとともに入場者の緑化活動への参加を呼びかけます。
- 専門家による審査のほか、入場者による人気投票などを行い、興味を喚起する方法を導入します。

## (2) 行催事計画

メイン会場においては、以下の考え方に基づいて行催事を行います。

- フェアを盛り上げ、花や緑の普及に寄与する戦略的な行催事を展開します。
- 花や緑に関心のある人だけでなく、大人から子供まであらゆる世代が楽しめる魅力ある行催事を展開します。
- フェア開催周知や観客誘致を目的とした話題性のある行催事を展開します。

## (3) 会場運営計画

メイン会場においては、以下の考え方に基づいて会場運営を行います。

- 山口きらら博記念公園では、公園内の多目的ドームや水泳プールなどフェア期間中についても一般利用が見込まれる施設があるため、実行委員会と既存公園管理者との連携・協力により運営管理を行います。
- 快適で安全な空間を提供するとともに、来場者が多彩な花や緑にふれ、緑化活動の実践につながるような運営管理を行います。
- 様々な場面で多くの県民がフェアに参加、協働できる環境や体制を整え、フェア後の緑化推進の担い手づくりを念頭に置いた運営管理を行います。

## (4) 広報宣伝計画

以下の考え方に基づいて広報宣伝活動を行います。

- 効果的な広報宣伝を図るために、テレビ、新聞等のメディアを活用したり、県・市町の広報や緑化関係団体等と連携した幅広い広報活動を展開することで、広く県内外へのフェア周知を図ります。
- 県外からの誘客も視野に、公共交通機関や旅行会社等との連携による広報宣伝活動を推進します。



(5) 交通輸送計画

以下の考え方に基づいて交通輸送を行います。

- 手段別来場者数を想定し、必要に応じて臨時駐車場の設置を検討します。
- メイン会場と鉄道駅等をつなぐシャトルバスの運行を検討します。
- メイン会場となる山口きらら博記念公園は広大な敷地を有するため、来場者の回遊性を高めるための補助的な移動手手段（園内交通）の導入を検討します。

(6) 協働推進計画

以下の考え方に基づいて協働推進、人材育成を行います。

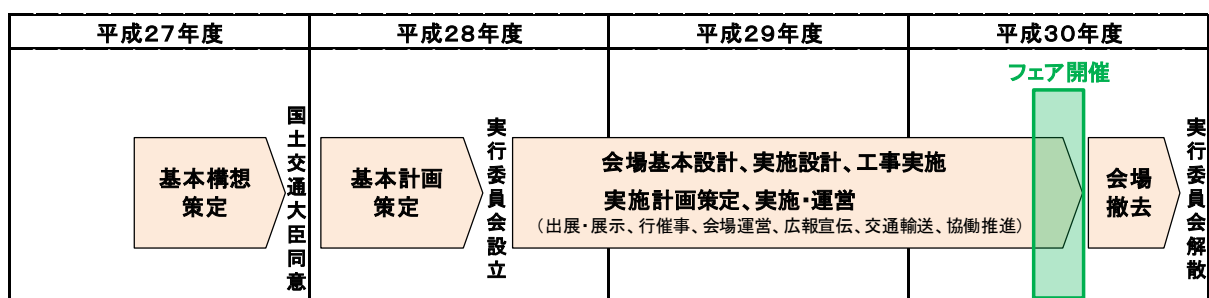
- 緑化活動のリーダーやコーディネーターを養成する研修会や体験教室などをイベントとして実施します。
- 会期中のボランティア活動自体が緑化の基礎的な知識の習得となるように工夫します。
- フェア後も県民主体の緑化活動を継続できるようにボランティア活動を通じた幅広い緑化活動の参加者となる人材の育成を図ります。

## 7 事業推進計画

(1) 事業推進体制

フェアの円滑な事業推進を目的に、山口県、山口市、公益財団法人都市緑化機構や経済団体、花と緑の関係団体、交通事業者などにより構成する実行委員会を設置します。

(2) 事業スケジュール



(3) 概算事業費

基本計画において、開催期間、事業内容などを勘案し設定します。